

メジャー&キャリア Major & Career

メジャー&キャリア

▶ 一覧に戻る

🖨 本文印刷

▶ 中村さん 一回目



■プロフィール

2003年にICUに入学。3年生修了時に退学・再入学の制度を利用し、イギリスのNGO団体を通して、アフリカのモザンビーク・アンゴラにて教育分野のボランティアを行う。2年後に大学に戻り、国際関係学科と人文科学科の学科間専攻で2009年に卒業。大学院を経て、JICA(国際協力機構)に就職し、現在(※インタビュー当時)は中南米地域の青年海外協力隊事業を担当している。



聞き手: 清水さん(4年生)、飯塚さん(2年生)

< 第一回: 国連に入るには、経済が狙い目? >

飯塚 なぜICUに入学したのか、というところからお聞き出来ればと思います。

中村 私の場合は、ICUを知るより先に、やりたいことに出会いました。

中学校一年生の時だったのですが、**たまたま見ていたマザーテレサのドキュメンタリー番組に衝撃を受けて**、私も世界の貧困のために何かしたいというか、同じ地球上に同じタイミングで生まれてきたのに、なんでこんなに人生が違うんだろうと感じて。

しかも、その人たちのために一生を捧げた女性が実在したということにとってもびっくりして。そういう生き方をしたいなと思ったんです。



飯塚 中学校一年ですか！私なんて、遊んでばかりでした(笑)

中村 私も遊んでいましたよ！

ただ、ちょうどその頃、気管支炎を患っていて、学校を休んでいたんです。仰向けになると息苦しいから、一日中座椅子に座りっぱなし、寝落ちすると息が止まって起きてしまう……。そんな事をずっと繰り返していたんです。

本当に辛くて、**世界で自分が一番かわいそうかも**と思っていた時にたまたま観たのが、マザーテレサの番組だったんです。たった15分程度のドキュメンタリーだったんですが、自分なんかよりもはるかに辛い目にあっている人がいて、かつそれに一生を捧げた人がいたなんて、と。

清水 その時の気持ちと、テレビの内容が偶然巡り合ったんですね。

中村 中学校一年生という早い段階でマザーテレサに出会って、国際機関で働きたいという夢を持ち、それに向かってICUIに入ったということは、その時に受けた衝撃が大きかったみたいですね！（笑）

清水 では、国際機関を目指すためにICUIに入学したんですか？

中村 中学の社会科の教科書で国際公務員や国連の仕事があると知って、興味を持ったんです。

当時の日本は、GDP世界第二位の経済大国だったんですよ。で、あと少しで一位なのかとか、二位って悔しいなと思いつつ、でもそんな大国に生まれて、国際公務員という仕事であれば役に立てるのかなと漠然と思いました。

国際公務員をたくさん輩出している大学はどこなんだろうって思っていた時に、塾の先生がICUIを教えてくれたのがきっかけです。

ICUIについて調べて見ると、入るのも難しそうだし、入った後も大変そうで、しかも知名度もあまり高くないのに学生が集まっている。ということは、そこに集まっている人たちはすごいモチベーションが高いんじゃないかな、と想像したんです。

私は、大学の知名度よりも、その四年間を過ごしたら個人の力が付きそうだなと思い、ICUIに入学する事を決めました。

清水 なるほどー。ちなみに、国際機関以外の将来の道を考えてみたりはしなかったんですか？

中村 実は、ブラジャーの物理的な構造とかにもすごく関心があった(笑)。

だから、JICAに就職しなかったら、下着メーカーに入っていたかもしれません。

だって、日本のブラジャーの技術ってすごいじゃないですか。**日本の技術で東アジアの貧乳を救える**んじゃないかって……(笑)



清水 国際的な、海外での仕事に興味を持ち始めたのも、やはりマザーテレサの影響なんですか？

中村 それ、よく聞かれるんです。

でも私、実は海外で仕事をしたり、留学をしたりする事に関心があったわけではないんです。

「途上国」だとか、世界の不条理、格差をできるだけ少なくなるような仕事をしたいし、そういう事を学びたい、というのが先にあって、たまたま自分の勉強したい事がイギリスにあったからイギリスの大学院に行ったり、「勉強しているだけじゃ意味がないかも」と思って3年生の時にICUを休学して、イギリスのNGO団体を通じてアフリカで半年間、活動したりしました。

清水 なるほど……。

中村 **だから、先にやりたい事があって、たまたまその場所が海外だった**ので、そこに行っただけだということです。

飯塚 ICUに入学して、何が何でも海外で……というわけではなかったんですね。

中村 ICUには国際関係学科(IS)で入学したのですが、何も迷いも無くバリバリ勉強していたのかと言われると、実はそうではなくて……。

飯塚 そうなんですか？

中村 学科制の時代は、リトリートは学科ごとに行われていたんです。

だから、リトリートでは自分の周りにはみんなISの人ばかり。「国連行きたいです」みたいな人が集まってて。あー、類は友を呼ぶとはこのことなんだと。

清水 そうだったんですね。

中村 リトリート中、皆が「国連に行くには？」という感じの質問を教授に投げかけていたんですね。

その時、ある先生が「日本人の国連職員は確かに少ない。けれど、方法としては政治分野で行くか経済分野で行くかという選択肢がある。経済分野のほうが入りやすいし、日本人の強みを活かしやすいから狙い目だよ！」とアドバイスしていたんです。

それを聞いた周りの皆は、経済の方に流れていったんですが、私にはそれにピンと来なかった。**国連に入るために経済をやるのは変だよ**あって違和感を感じたんです。



飯塚 なるほどー。

中村 他にも、入学後に取った「開発学入門」という授業では、戦後どのように「先進国が途上国を支援する」という構造が始まったのかという、1950年代～60年代から現在に至るまで歴史と経済の話を主にしていました。

でも、正直私は興味が湧かなくて。私のやりたいことは本当に歴史と経済だったのかな？と感じていました。

そんな時、横関祐見子先生(ICU卒業生、現ユニセフ中西部アフリカ地域事務所・教育アドバイザー)の「発展途上国の教育」という授業を受けた時に、「これだ!」と思ったんです。

私は、政治や経済のマクロな動きよりも、**援助の対象となる人の顔が見える**というか、JICAでは「被益者」という言葉を使うんですが、直接そういう人たちに関わられる仕事がしたいんだなって思ったんです。

ですから、自分が関心を持っているのは、同じ途上国開発でも、政治や経済では無く、国際協力の、しかも教育分野なんだと気付く事ができたのは、すごく良かったですね。

[<次へ>](#)

<感想は majorandcareer★gmail.com まで>
★を@に置き替えて下さい

もくじ

[第一回 国連に入るには、経済が狙い目?](#)

[第二回 いつか、恩返しできるように](#)

[第三回 人の生活は、分野では区切れない](#)

[第四回 ときめく授業と人を追いかける](#)

ツイート